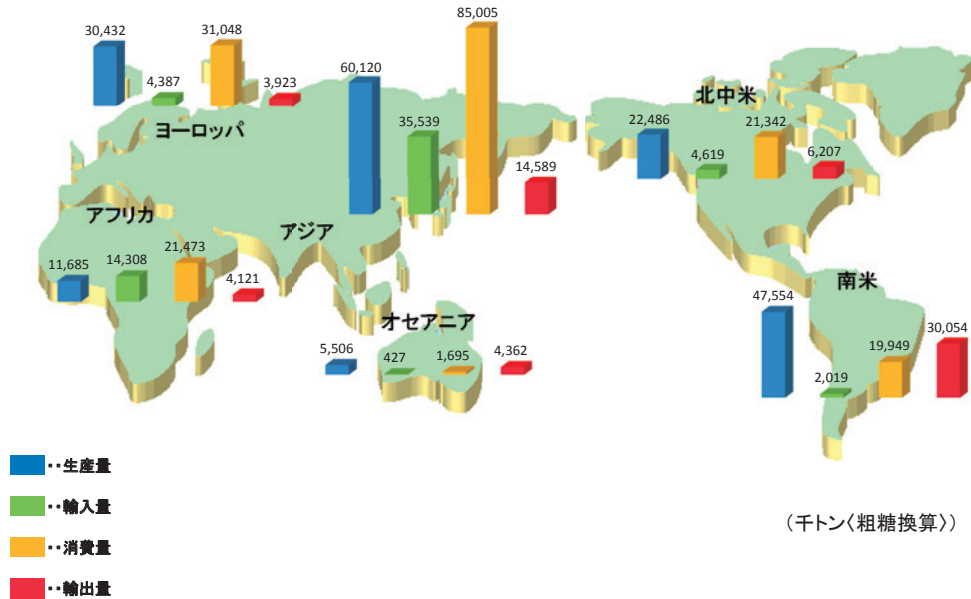


砂糖の国際需給

調査情報部 佐々木 由花

1. 世界の砂糖需給 (2017年9月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2016/17年度予測値)



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,September 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)
 注1：年度は2016年10月～翌9月。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,399	151,603	49,849	161,832	50,974	60,045	37.1
2012/13	64,157	184,162	59,150	171,679	61,545	74,245	43.2
2013/14	74,245	181,494	58,461	175,710	59,205	79,286	45.1
2014/15	79,286	180,704	58,414	178,554	59,538	80,313	45.0
2015/16	80,313	174,636	63,493	179,757	66,414	72,271	40.2
2016/17 (2017年9月予測)	72,271	177,783	61,300	180,512	63,257	67,586	37.4
2017/18 (2017年9月予測)	67,586	191,794	61,212	183,953	63,637	73,002	39.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, September 2017」
 注1：年度は国際砂糖年度(10月～翌9月)。
 注2：2014/15年度および2015/16年度は推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。
 注3：期末在庫量は(期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量)である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2018年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2017年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001579.html

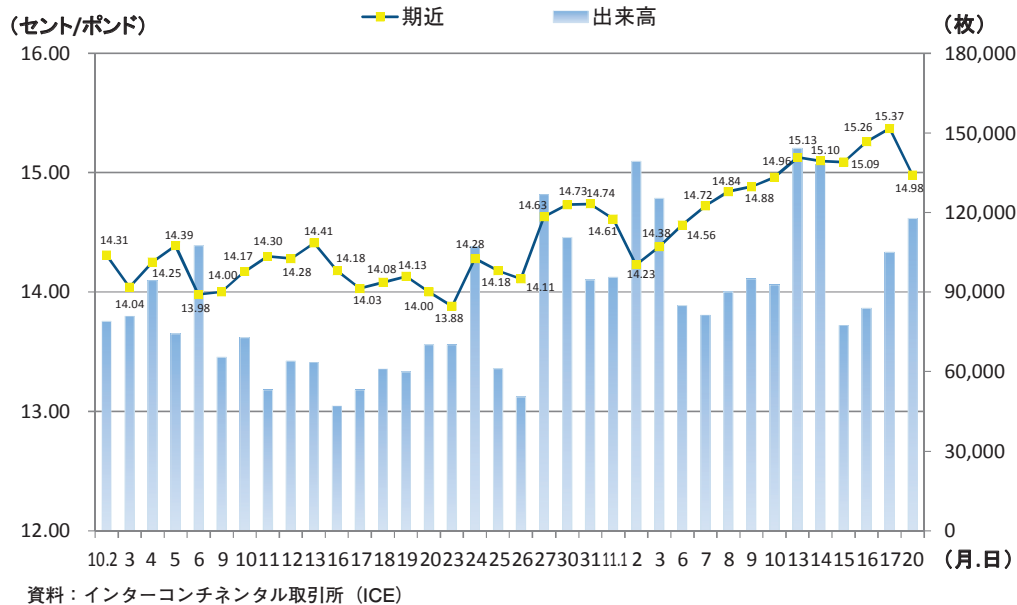
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001580.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（10/2～11/20）

～おおむね1ポンド当たり14セント台で推移も、ブラジルでのエタノール需要の高まりなどから11/17には同15.37セントまで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）の2017年10月の推移を見ると、2日は1ポンド当たり14.31セントの値を付け、3日は反落したが、9月末のEUにおける生産割当廃止に伴う供給量の増加が後ろ倒しになるとの見通しから、5日には同14.39セントに上昇した。世界的な供給増見通しに抑えられ、6日に同13.98セントへ反落した後、14セント台前半で推移し、23日には同13.88セントまで値を下げた。翌24日は、ブラジル中南部の製糖企業がサトウキビのエタノール仕向け割合を増加させているとのブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^(注)の報告を受け、同14.28セントへ上昇した。その後、ブラジル通貨リアルが米ドルに対し安値で推移したことが押し下げ要因となり、26日には同14.11セントに下落したが、ブラジルで製

糖企業がサトウキビをエタノールへ仕向ける動きが加速したことから、31日には同14.74セントに上昇した。

11月に入ると、価格が上値に達したとして下落し、2日は同14.23セントまで値を下げた。しかしその後、インドの砂糖生産量が当初の予想を大きく下回るとの見通しや原油高によりブラジルでサトウキビのエタノール仕向け割合が一層高まるとの見通しから続伸し、13日には同15.13セントの値を付けた。17日には5カ月半ぶりの高値となる同15.37セントまで上昇したが、20日は反落し、同14.98セントの値を付けた。

(注) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年11月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）

生産量：6億4763万トン（同1.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4080万トン（同0.7%増）

輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する大手民間調査会社）の2017年11月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、905万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加が見込まれている。しかし、生産量は、サトウキビの新植が進まず単収が減少したため、6億5718万トン（同1.3%減）とわずかな減少が見込まれている（表2）。

一方、砂糖生産量は、国際砂糖価格の上昇により、製糖企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合を増やしたことや製糖歩留まりが向上したことなどから、4053万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同15.2%増）とかなりの増加が見込まれている。こうした増産見込みに伴い、輸出量も過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少するものの、生産量は単収の増加から、6億4763万

トン（同1.5%減）と見込まれている。

砂糖生産量は、4080万トン（同0.7%増）と前年度並みが見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、国際的な砂糖需要の緩やかな減少に伴い、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

なお、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）^{（注1）}が8月24日に発表した2017/18年度生産見通しによると、サトウキビ栽培面積は877万ヘクタール（同3.1%減）とやや減少するものの、1ヘクタール当たりの収量が73.7トン（同1.5%増）と見込まれるため、サトウキビ生産量は、6億4634万トン（同1.7%減）とわずかな減少にとどまると見込まれている。しかし、一方で、砂糖生産量は、3939万トン（同1.8%増）と過去最高に達すると見込まれている。

UNICAが発表した2017年4～10月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は、多雨の影響から、5億2960万トン（前年同期比2.0%減）とわずかに減少したが、砂糖生産量は3310万トン（同2.8%増）とわずかに増加した。一方、エタノール生産量は、2260万キロリットル（同0.4%減）と前年度並みとなった。輸出量も含めたエタノールの販売量は、1527万キロリットル（同6.3%減）とかなり減少し、含水エタノール^{（注2）}の国内販売量は、価格が上昇したため861万キロ

リットル（同8.1%減）とかなり減少した。

しかし、UNICAによると、中南部地域では10月の含水エタノール国内販売量が150万キロリットル（前年同月比21.7%増）と大幅に増加しており、2015年9月以来の高水準となっている。これは、7月にブラジル国営石油公社ペトロブラスがガソリン卸売価格を引き上げたことで、ガソリン価格が上昇し、競合する含水エタノールの価格競争力が高まっているためである。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、8月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.42リアル（85円〈10月末日TTS：1リアル＝35円〉）とガソリン小売価格の同3.56リアル（125円）の70%（注3）を下回った。これにより、今後も

エタノール需要が高まると見込まれることから、製糖企業によるサトウキビのエタノール仕向け割合が増加するとの見方も強まっている。

（注1）主要作物の生産状況報告や予測などを行っているブラジル農牧食糧供給省直轄の機関。

（注2）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

（注3）一般的なフレックス車のエタノール燃料効率率がガソリンの70%程度とされていることから、消費者の購入判断の基準となっている。

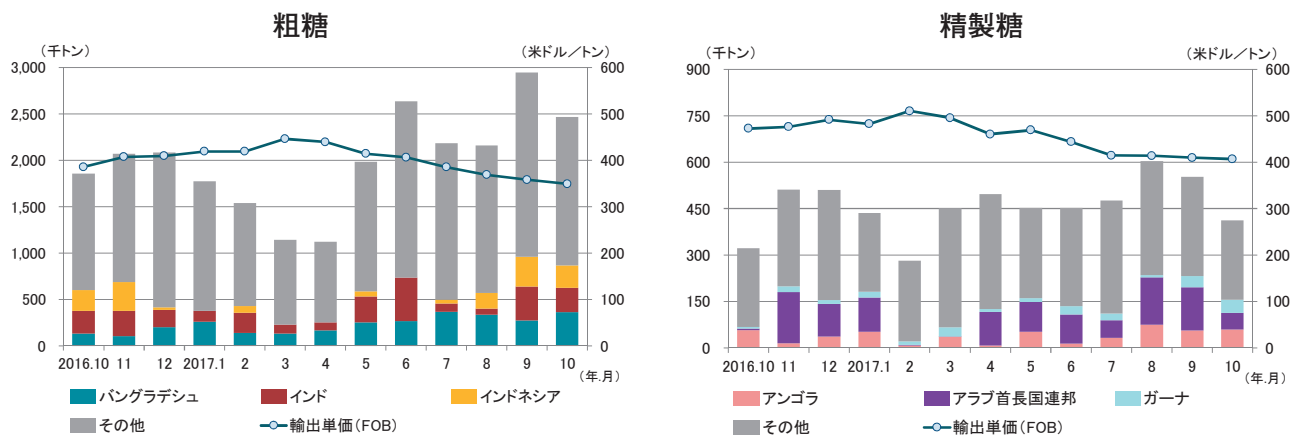
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (10月予測)	2016/17 (11月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (10月予測)	2017/18 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,049	9,049	4.6	8,839	8,839	▲ 2.3	
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	657,184	657,184	▲ 1.3	647,626	647,626	▲ 1.5	
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,534	40,534	15.2	40,800	40,800	0.7
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	11,800	11,700	11,700	▲ 0.8	11,900	11,900	1.7
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,740	28,740	14.4	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	813	906	906	11.5	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	18.2	20.5	6.9	7.7	7.7	12.4	9.3	9.3	20.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017」

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）
生産量：3億672万トン（同14.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2200万トン（同19.6%減）
輸出量：215万トン（同47.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億672万トン（同14.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。また、砂糖生産量も2200万トン（同19.6%減）と製糖歩留まりの低下により大幅な減少が見込まれている（表3）。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、2016年6月中旬以降、砂糖の輸出（粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く）に対し、輸出関税（20%）を導入している。また、11月上旬には、10月末までに延長していた貿易業者に対する砂糖の保有在庫数量の上限の設定期限を、2カ月引き伸ばし、12月末までとすることを発表した。これらにより、砂糖輸出量は、215万トン（同47.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、砂糖輸入量は、国際価格の下落や中央政府が先ごろ粗糖50万トンの無税輸入を許可した^{（注1）}ことにより、輸入粗糖を原料とする精製糖生産の利益が増加するとみられていることなどから、255万トン（同33.8%増）と大幅に増加すると見込まれている。なお、砂糖の輸入関税は7月上旬、40%から50%に引き上げられている。

2017/18年度の砂糖生産量は大幅に増加も、輸出量は大幅減の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は498万ヘクタール（前年度比5.0%増）とやや増加し、生産量は3億3769万トン（同10.1%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖生産量は、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、2720万トン（同23.6%増）と3年ぶりの増加が見込まれている。主要生産州を見ると、ウッタルプラデシュ州は1020万トン（同16.3%増）、マハラシュトラ州は680万～740万トン（同2.1～2.3倍）と、ともに大幅な増加が見込まれている。現地報道によると、両州では10月中の多雨により、工場の稼働が例年よりも約半月遅れの11月から開始されたが、マハラシュトラ州では単収が向上している。

砂糖輸出量は、生産量が増加するものの、期首在庫量が低水準と見込まれていることから、110万トン（同48.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

現地報道によると、タミルナド州サトウキビ生産者協会は10月中旬、州内の24工場で過去4年間に生産者に支払うべき合計138億4000万ルピー（264億3440万円〈10月末日TTS：1ルピー＝1.91円〉）のサトウキビ代金が未払いとなっていることについて、州政府に対し、法的な措置を講じるよう要請している。

一方、ウッタルプラデシュ州およびマハラシュトラ州の各州政府は11月7日、国内の砂糖価格の上昇に伴い、2017/18年度におけるサトウキビ取引

価格を引き上げると公表した。ウツタルプラデシュ州では、1トン当たり前年度比100ルピー（191円）高の3150ルピー（6017円）、マハラシュトラ州では同275ルピー（525円）高の2750ルピー（5253円）^{（注2）}が、製糖工場から生産者へ支払われることとなる。ウツタルプラデシュ州政府は、同措置により、生産者の収入が州全体で106億ルピー（202億4600万円）増加すると予想している。

（注1）砂糖生産量が、干ばつにより大幅に減少し、消費量を下回ると見込まれる中、マハラシュトラ州の製糖企業により再輸出入用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどをを受けて実施された措置である。

（注2）マハラシュトラ州は、中央政府が毎年定める1トン当たりの公正取引価格を基に生産者への支払価格を設定している。2016/17年度は、公正取引価格の2300ルピー（4393円）に対し、同州の支払価格は同価格より175ルピー（334円）高い2475ルピー（4727円）であった。2017/18年度は、公正取引価格の2550ルピー（4871円）に対し、支払価格は、200ルピー（382円）高い2750ルピー（5253円）に設定された。

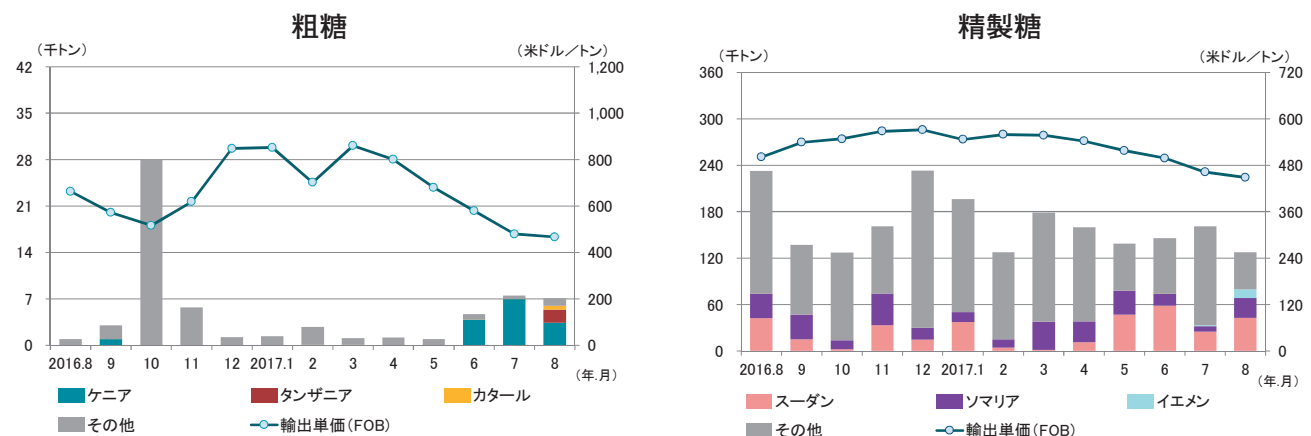
表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (10月予測)	2016/17 (11月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (10月予測)	2017/18 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2	4,978	4,978	5.0	
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	306,720	306,720	▲ 14.5	337,690	337,690	10.1	
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	22,000	22,000	▲ 19.6	27,200	27,200	23.6
	輸入量	1,349	1,303	1,904	2,500	2,548	33.8	2,000	2,000	▲ 21.5
	消費量	26,295	27,842	27,010	26,304	26,522	▲ 1.8	27,500	27,500	3.7
	輸出量	2,742	2,608	4,105	2,000	2,154	▲ 47.5	1,100	1,100	▲ 48.9
	期末在庫量	8,223	9,692	7,852	4,047	3,725	▲ 52.6	4,647	4,325	16.1
	期末在庫率	31.3	34.8	29.1	17.7	14.0	▲ 51.7	16.9	15.7	12.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017」

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）
生産量：1億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：1010万トン（同6.7%増）
輸入量：364万トン（同41.2%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が1億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表4）。これは、最大生産地域である広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加と良好な生育に伴う単収の増加が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加が予想されている。地域別に見ると、特に、主要生産地である内モンゴル自治区で増加している。これらにより、砂糖生産量は、1010万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）が発表した2016/17年度の生産実績報告によると、砂糖生産量は、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、精製糖換算で929万トン（同6.8%増）とかなり増加した（図3）。このうち、甘しゃ糖は824万トン（同5.0%増）、てん菜糖は105万トン（同23.2%増）と、ともに増加している。

中央政府は2016年10月以降、入札により備蓄砂糖を国内企業へ売り渡しており、2017年1月時点で合計約65万トンが市場に放出された。現地報道によると、2017年9月に広西チワン族自治区で33万トン、その他にも37万トンが売り渡されたとみられている。CSAは、2016/17年度に200万ト

ン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいた。

砂糖輸入量は、364万トン（同41.2%減）と見込まれている。これは、2017年5月22日から2020年5月21日までの3年間、世界貿易機関（WTO）協定に基づく関税割当（194万トン、関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率を95%まで引き上げたことによる^{（注）}。CSAの輸入実績報告によると、9月の輸入量は、16万トン（前年同月比67.5%減）と前年同月の3分の1程度へ大幅に減少した。枠外税率は、毎年度5%ずつ引き下げられる予定であるが、ミャンマーなどからの「非公式な」砂糖の流入および第三国経由での輸入量の増加が懸念されていることから、中央政府は、今後も国境での監視を強化するとしている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸入量ともに 大幅増の見込み

2017/18年度は、サトウキビについては、収穫面積が193万ヘクタール（前年度比5.5%増）とやや増加し、生産量は単収の増加に伴い、1億3700万トン（同8.3%増）とかなりの増加が見込まれている。

てん菜についても、収穫面積は20万ヘクタール（同30.9%増）、生産量は1100万トン（同42.8%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。地域別では、主要生産地である内モンゴル自治区の増加が見込まれている。これらにより、砂糖生産量は、1210万トン（同19.8%増）と大幅な増加が見込まれている。

砂糖輸入量は、依然として生産量が消費量を下回ると見込まれる中、期首在庫量が低水準にあることもあり、575万トン（同57.9%増）と大幅な増加が見込まれている。中央政府は10月12日、2018年の砂糖の輸入割当数量を前年と同じ195万トンに設定した。

(注) 海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率が95%に引き上げられた。ただし、開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

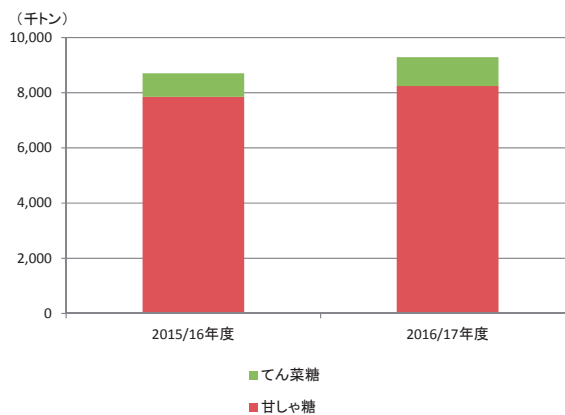
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (10月予測)	2016/17 (11月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (10月予測)	2017/18 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	1,927	1,927	5.5	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	136,998	136,998	8.3	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	195	195	30.9	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	11,000	11,000	42.8	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,097	10,097	6.7	12,100	12,100	19.8
	輸入量	4,054	5,354	6,199	3,921	3,642	▲ 41.2	5,750	5,750	57.9
	消費量	16,150	16,600	17,283	16,739	16,739	▲ 3.1	17,500	17,500	4.5
	輸出量	51	64	167	112	135	▲ 19.3	80	80	▲ 40.7
	期末在庫量	7,141	7,305	5,513	2,680	2,379	▲ 56.9	2,950	2,649	11.4
	期末在庫率	44.2	44.0	31.9	16.0	14.2	▲ 55.5	16.9	15.1	6.5

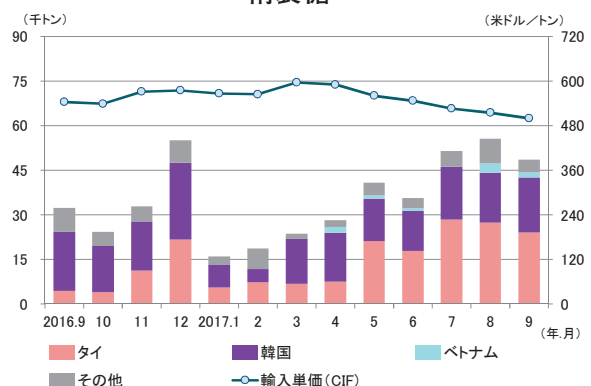
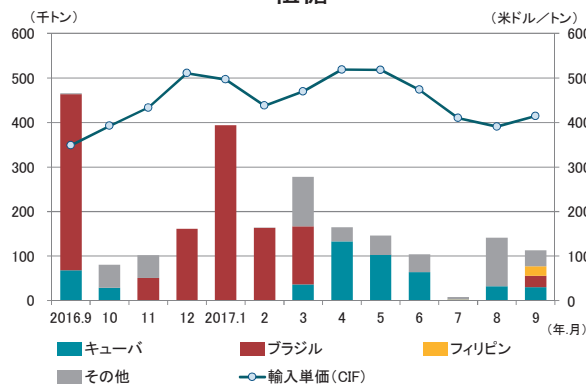
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017」

図3 中国の砂糖生産実績



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）

生産量：1億1795万トン（同12.2%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1694万トン（同12.8%増）

輸入量：316万トン（同15.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸入量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜の収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1795万トン（同12.2%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017年10月以降の生産割当廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっていた一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られていた。砂糖生産量は、製糖歩留まりの向上などから、1694万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。増産による域内の砂糖価格の下落に伴い、砂糖輸入量は、316万トン（同15.8%減）とかなりの減少が見込まれている。

欧州委員会は10月6日、砂糖を含む農産物の短期需給見通しを公表した。これによると、2016/17年度のてん菜生産量は1億1182万トン（同9.8%増）と、直近10年間で最低水準となった前年度からかなり増加し、砂糖生産量は精製糖換算で1684万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸入量はわずかに減少の見込み

生産割当が廃止された2017/18年度は、てん菜の収穫面積が185万ヘクタール（前年度比16.0%増）、生産量は、好天による単収の増加もあり、

1億4162万トン（同20.1%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。これにより、砂糖生産量は1920万トン（同13.4%増）とかなり増加する一方、砂糖輸入量は313万トン（同1.0%減）とわずかな減少が見込まれている。ただし、EUで第3位の砂糖生産国であるポーランドでは、9月末から10月上旬にかけての多雨により、収穫作業が遅れた。これに加え、製糖歩留まりの低下も見込まれるため、当初増加が見込まれていた砂糖生産量は、前年度並みの210万トン程度にとどまると見込まれている。

一方、前述の欧州委員会の短期需給見通しによると、2017/18年度のてん菜生産量は、生産割当の廃止に伴う栽培面積の拡大と単収の増加が見込まれることから、1億3111万トン（同17.3%増）となり、砂糖生産量も2013万トン（同19.5%増）と大幅に増加する一方、輸入量は150万トン（同34.9%減）と、前年度の3分の2程度と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量の増加に加え、WTOの裁定により設けられた輸出上限が生産割当の廃止に伴い撤廃されることから、280万トン（同2.2倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格とEU域内価格の動向に左右されるとみられる。

現地報道によると、ある大手飲料製造企業は、東欧市場向けの一部の商品に使用する甘味料について、異性化糖から砂糖へ切り替える方針を明らかにした。同企業は、既にチェコで販売する飲料の甘味料を異性化糖から砂糖へ切り替えており、2017年

上半期における同国での売上高は前年同期比で4.5%以上伸長した。同社は、この切り替えについて、甘味料市場の価格変化によるものではなく、風味の追求によるものと強調している。商品全体の配

合を見直したことにより、カロリーも従来より30%削減されており、同様の商品は、ポーランド、ハンガリーおよびスロバキアでも販売される予定である。

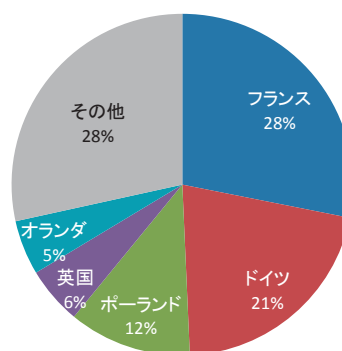
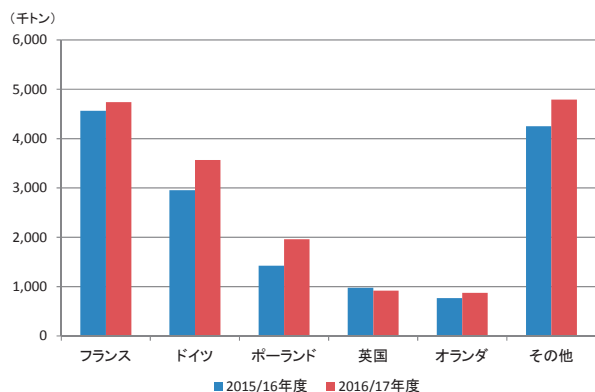
表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (10月予測)	2016/17 (11月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (10月予測)	2017/18 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8	1,592	1,846	16.0	
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	117,948	117,948	12.2	122,405	141,621	20.1	
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,011	16,938	16,938	12.8	16,989	19,200	13.4
	輸入量	3,944	3,456	3,750	3,124	3,159	▲ 15.8	3,127	3,127	▲ 1.0
	消費量	19,286	19,245	18,719	18,740	18,740	0.1	18,759	18,759	0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,339	1,427	▲ 5.3	1,341	1,341	▲ 6.0
	期末在庫量	8,799	10,599	9,135	9,117	9,065	▲ 0.8	9,151	11,293	24.6
	期末在庫率	45.6	55.1	48.8	48.3	48.4	▲ 0.9	48.8	60.2	24.4

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017」

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2017年6月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2017年11月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。

豪州

2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）

生産量：3340万トン（同8.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：489万トン（同1.0%減）

輸出量：370万トン（同5.9%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、 輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3650万トン（同4.8%増）とやや増加が見込まれている（表6）。しかし、砂糖生産量は、5～6月に収穫されたサトウキビの製糖歩留まりが、3月に襲来したサイクロンの影響により低下したことから、494万トン（同2.2%減）とわずかな減少が見込まれている^(注)。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、393万トン（同5.3%減）とやや減少が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量はわずかに減少、 輸出量はやや減少の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれているものの、サイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3340万トン（同8.5%減）とかなりの減少が見込まれている。これにより、砂糖生産量は、489万トン（同1.0%減）とやや減少が見込まれており、10月にクイーンズランド州バンダバーグ地区を襲った豪雨被害の状況によっては、今後さらに下方修正される可能性がある。輸出量は、生産量の減少に伴い370万トン（同5.9%減）とやや減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が9月中旬に公表した2017/18年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は38万ヘクタール（同2.3%増）

とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、1ヘクタール当たり収量が92トン（同6.8%減）とかなり減少すると見込まれている。砂糖生産量は、480万トン（同0.1%減）と前年度並みが見込まれており、輸出量も、前年度並みの405万トンと見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）は、11月中旬時点の2017/18年度のサトウキビ圧搾量見込みを3338万トンと、主産地の荒天を反映し、10月中旬時点の予測から1万6000トン下方修正している。

現地報道によると、クイーンズランド州バンダバーグ地区は10月、度重なる豪雨に見舞われたことから、サトウキビ圃場の浸水被害が発生し、強風で倒れた電柱や樹木などにより、収穫が当初予定よりも3週間ほど遅れると見込まれている。

豪州政府は11月10日、ペルーとの自由貿易協定（FTA）に署名した。これにより、豪州産粗糖は、無税の関税割当の下でペルーへ輸出されることとなる。ペルーは現在、砂糖生産量120万トンに対し、消費量は150万トンと、需要が国内供給を上回っているため、外国産粗糖を原料とした精製糖により国内需要を補っている。同国の主な粗糖輸入先国は、コロンビア、グアテマラおよびブラジルで、2016年の粗糖輸入量は38万9100トン、2017年は9月までに既に50万6000トンを入力している。豪州産粗糖の関税割当は初年度が3万トンであるが、今後5年で6万トン、18年で9万トンへ拡大されることとなっている。

（注）豪州の砂糖年度は7月～翌6月とされているが、製糖が開始される5～6月の数量は、例年前年度に含まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (10月予測)	2016/17 (11月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (10月予測)	2017/18 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2	400	400	1.8	
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	36,500	36,500	4.8	33,604	33,396	▲ 8.5	
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,052	4,940	4,940	▲ 2.2	5,312	4,890	▲ 1.0
	輸入量	159	170	76	116	108	42.5	110	110	1.6
	消費量	1,345	1,337	1,298	1,280	1,280	▲ 1.5	1,355	1,355	5.9
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,719	3,932	▲ 5.3	4,000	3,700	▲ 5.9
	期末在庫量	1,162	1,088	766	824	603	▲ 21.3	890	548	▲ 9.1
	期末在庫率	86.5	81.4	59.0	46.5	47.1	▲ 20.2	65.6	40.4	▲ 14.2

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017]

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）

生産量：9300万トン（同1.1%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1030万トン（同2.7%増）

輸出量：708万トン（同9.3%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みが見込まれる一方、長引く干ばつの影響で単収が減少することから、生産量は9300万トン（同1.1%減）とわずかな減少が見込まれる（表7）。

しかし、砂糖生産量は、製糖歩留まりの向上などから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加が見込まれている。一方、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、708万トン（同9.3%減）とかなりの減少が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸出量はやや減少の見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、他作物からの転作の進展などにより154万ヘクタール（前年度比9.4%増）、生産量は1億500万トン（同12.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれて

いる。

砂糖生産量は、天候に恵まれたことで、製糖歩留まりが向上し、1200万トン（同16.5%増）と大幅な増加が見込まれている。一方、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、680万トン（同3.9%減）とやや減少が見込まれている。

タイ製糖協会が10月中旬に発表した見通しによると、2017/18年度のサトウキビ圧搾量は、一部の地域で洪水による影響が見られるものの、前年度から10%増の1億400万トンと見込まれている。

政府は現在、砂糖産業関連法の改正^(注1)に向けて手続きを行っている。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当^(注2)、および政府が設定している国内砂糖価格は廃止されるとみられる。

現地報道によると、法改正後の新制度の施行開始時期については、当初12月1日が予定されていたが、サトウキビ取引価格の算定方法に関する関係者との協議や国内砂糖小売価格の自由化に係る関連規

程の改正などに時間を要しており、予定どおりの施行が危ぶまれている。生産者団体は、将来的にサトウキビおよび砂糖産業に深刻な影響が及ぶとして、運用方針が固まらない限り延期するよう求めている。菓子業界からは、施行後の価格の見通しや消費者への影響が不透明であるとして、政府に説明を求める声が出ている。

現地報道によると、9月16日から実施されている糖類を含む飲料に対する税率は、糖類含有量に応じて設定され、2年ごとに引き上げられる(表8)。飲料製造者が徐々に糖類を減らした製品を製造できるよう、6年間の猶予期間が設けられ、高い税率が課される糖類含有量の上限值は段階的に引き下げられることとなっている。

(注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たりWTO協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。サトウキビ・砂糖委員会事務局(OCSB)によると、改革案はその後また閣議レベルで吟味され、公聴会を実施してから再提出するよう、OCSBへ返却された。その後、OCSBは公聴会を実施したが、関連規程の改正などに時間を要し、現在に至る。改革案は近いうちに閣議へ再提出される予定となっている。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (10月予測)	2016/17 (11月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (10月予測)	2017/18 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2	1,540	1,540	9.4	
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	93,000	93,000	▲ 1.1	105,000	105,000	12.9	
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,299	10,299	2.7	12,000	12,000	16.5
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	3,500	0.0	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,065	7,078	▲ 9.3	6,800	6,800	▲ 3.9
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	4,241	4,228	▲ 6.2	5,941	5,928	40.2
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	127.6	120.8	▲ 6.2	169.8	169.4	40.2

資料: Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017]

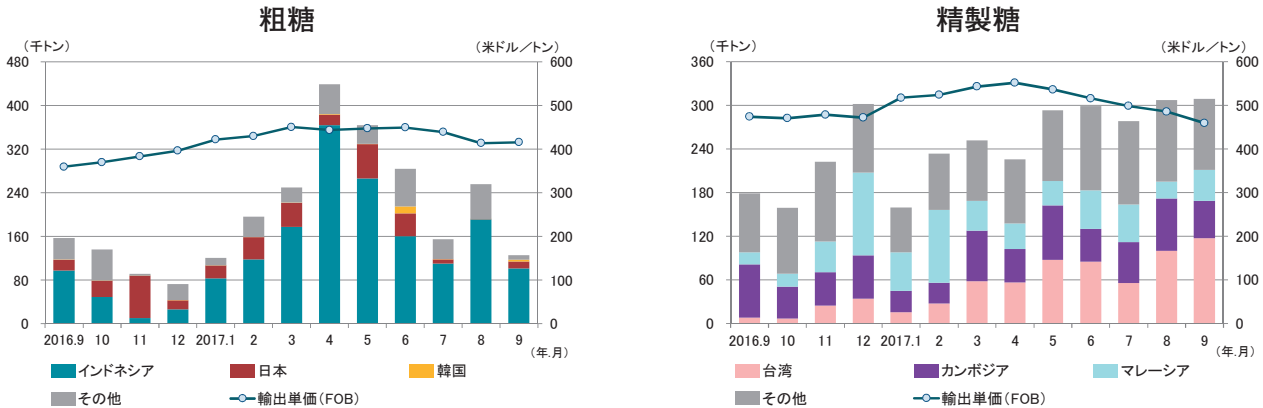
表8 糖類を含む飲料に対する課税スケジュール

糖類含有量 (100ミリリットル当たり)	税率 (1リットル当たり)			
	2017年9月~19年9月	2019年10月~21年9月	2021年10月~23年9月	2023年10月以降
6グラム以上8グラム未満	0.1パーツ (0.35円)	0.1パーツ (0.35円)	0.3パーツ (1円)	1パーツ (3円)
8グラム以上10グラム未満	0.3パーツ (1円)	0.3パーツ (1円)	1パーツ (3円)	3パーツ (11円)
10グラム以上14グラム未満	0.5パーツ (2円)	1パーツ (3円)	3パーツ (11円)	5パーツ (18円)
14グラム以上18グラム未満	1パーツ (3円)	3パーツ (11円)	5パーツ (18円)	-
18グラム以上	-	5パーツ (18円)	-	-

資料: Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017]

注: 為替レートは1パーツ=3.49円 (10月末日TTS相場) を使用。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

フィリピン

2016/17年度(9月~翌8月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 47万ha (前年度比11.7%増)

生産量: 3404万トン (同10.3%増)

【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量: 250万トン (同11.7%増)

輸出量: 20万トン (同18.4%増)

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸出量は大幅増の見込み

2016/17砂糖年度(9月~翌8月)のサトウキビ収穫面積は47万ha(前年度比11.7%増)、生産量は3404万トン(同10.3%増)と、ともにかなりの増加が見込まれている。製糖歩留まりの向上も見られることから、砂糖生産量は250万トン(同11.7%増)とかなりの増加が見込まれている(表9)。

砂糖統制委員会(SRA)^(注1)が発表した生産実績報告によると、サトウキビ圧搾量は2801万トン(同20.4%増)と大幅に増加し、粗糖生産量は250万トン(同11.7%増)とかなり増加した。

また、SRAは3月下旬、2016/17年度の砂糖の割当数量のうち20%を国内供給向けから輸出向けに振り替えた^(注2)。これは、清涼飲料水用の中国産異性化糖の輸入の増加により、砂糖在庫量の増加が見込まれ、国内価格の低下が予想されたためである。

この結果、砂糖輸出量は20万トン(同18.4%増)と大幅な増加が見込まれている。SRAによると、8月末時点の輸出量は22万6891トンで、うち米国向けは19万2280トンとなっている。

2017/18年度の砂糖生産量は前年度並み、輸出量は大幅増の見込み

2017/18年度は、サトウキビ収穫面積、生産量、砂糖生産量のいずれも前年度並みと見込まれている。

一方、砂糖輸出量は、25万トン(前年度比25.6%増)と大幅な増加が見込まれている。これは、砂糖在庫量が高水準であることから、米国以外の国向けが増える見込まれるためである。SRAは、国内砂糖価格を安定させるため、11月末までに14万トンを米国以外向けの輸出割当で輸出するとしている。また、現地報道によると、既に中国への輸出が開始されており、米国以外の輸出先として、中国

に大きな期待が寄せられている。

フィリピン製糖事業者協会（PSMA）は、国内砂糖価格について、12月までに現在の50キログラム当たり1383ペソ（3250円〈10月末日TTS：1ペソ＝2.35円〉）から同1500ペソ（3525円）まで上昇すると見込んでいる。これは業界実需者が最近、中国産異性化糖から国内産砂糖に切り替えているため、砂糖在庫量の減少が見込まれることによる。SRAは、2016年の中国産異性化糖は、国内精製糖販売量の30%に達しており、砂糖の工場卸売価格の低下を引き起こしたとしている。

また、現地報道によれば、7月1日に可決された総合的な税制改革法案には、糖類を含む飲料への課税が盛り込まれている。税率は、国産糖が使用された清涼飲料水は、1リットル当たり10ペソ（24円）、輸入糖や輸入異性化糖が使用された清涼飲料水は、同20ペソ（47円）が課税されると報道されている

が、前者は5ペソ（12円）へ引き下げられることが早くも検討されているとの情報もある。この場合、国産糖が使用された清涼飲料水から得られる税収は、当初見込まれた470億ペソ（1105億円）から半減すると見込まれている。同協会の試算によると、1リットル当たり10ペソが課税された場合、製糖事業者の収益は30%、コーヒー業界の収益も75%減少すると見込まれている^{（注3）}。

（注1）砂糖の供給管理政策など国内砂糖産業の管理・監督などを実施する政府機関。

（注2）2016/17年度の砂糖の割当数量は、国内生産量のうち、①6%を米国向け（特恵的な関税枠を有す）②74%を国内向け③20%を輸出向けに設定している。

（注3）フィリピンをはじめとした東南アジア諸国では、コーヒー、粉乳、砂糖が混ざった「3-in-1」と呼ばれるインスタントコーヒーが日常的な嗜好品として消費されており、課税の影響はコーヒー業界にまで大きく波及すると見込まれている。

表9 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (8月予測)	2016/17 (11月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	435	435	420	422	469	11.7	469	0.0	
サトウキビ生産量	31,874	32,369	30,849	30,619	34,039	10.3	34,039	0.0	
砂糖	生産量	2,451	2,321	2,239	2,500	2,500	11.7	2,500	0.0
	輸入量	25	36	242	82	63	▲74.1	82	31.3
	消費量	2,369	2,436	2,348	2,200	2,301	▲2.0	2,350	2.1
	輸出量	369	47	168	159	199	18.4	250	25.6
	期末在庫量	666	541	506	777	568	12.4	551	▲3.1
	期末在庫率	28.1	22.2	21.5	35.3	24.7	14.7	23.5	▲5.1

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, November 2017」